

# 浮世絵等の活用に向けた基本方針の概要

## 経緯等

- 平成28(2016)年9月：「川崎・砂子の里資料館」休館
- 平成13(2001)年の開館以来、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する歌川広重、葛飾北斎等の浮世絵を中心に、約15年間にわたる作品を展示(入場無料)
- 展示施設としては事実上閉館しており、休館後は他施設への貸し出しにより国内外の各所で展示
- 平成29(2017)年8月16日、同法人から市に対し、所有作品の市内における有効活用について検討を依頼⇒同年9月から市が正式に調査を開始

## 1-1 浮世絵の特性

- 浮世絵とは  
江戸時代に成立した絵画作品で、版画が多く、当時は安価な量産品であった。当時の暮らしや流行などが反映されており、日本の歴史的な伝統や文化を伝える貴重な芸術作品である。
- 色彩の魅力  
魅力の一つは多彩かつ繊細な色使いであり、版画作品のため同じ発色のものはなく、色彩や保存状態が作品の評価に反映される。
- 浮世絵制作と職人文化  
浮世絵制作最大の特徴は、出版社にあたる版元の指示のもと、絵師、彫師、摺師が分業で作る体制で、職人の高い技術が不可欠であった。

- 展示環境  
浮世絵は、彩色材料が変色あるいは褪色し、文化財としての貴重な価値が失われる可能性があるため、展示環境が重要となる。

展示期間	最長 4 週間程度
温湿度	温度20℃程度 / 湿度50～55%
照明	・紫外線の発生しないLED照明 ・明るさは30～50ルクス
消火設備	水消火ではなくハロン等のガス消火が望ましい

## 1-2 浮世絵が与えた影響と評価

- 浮世絵の日本独特の大胆な空間表現や色彩使いなどが、モネやゴッホといった西洋の画家たちに大きな影響を与えた。
- 日仏友好160周年記念事業として「ジャポニスム2018」の開催が計画されており、浮世絵の展示も予定されている。
- 平成19(2007)年にロンドンで行われた競売で、葛飾北斎の「凱風快晴」が288,500ポンド(約6,800万円)で落札。平成28(2016)年にパリで行われた競売で、喜多川歌麿の版画「深く忍恋」が745,000ユーロ(約8,800万円)で落札。
- アメリカ・LIFE誌「この1000年で最も重要な功績を遺した100人」に、葛飾北斎が日本人で唯一選出されている。
- 平成29(2017)年にはロンドンの大英博物館で葛飾北斎の作品を中心に紹介する特別展が開催され、約15万人が来場した。

## 1-3 川崎・砂子の里資料館

### 1-4 (公社)「川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクション

- これまでの活動  
専門的な学芸業務のもとで浮世絵作品を中心とした企画展を毎月開催し、長期間展示できない浮世絵の特性を踏まえた展示運営を行ってきたことで、世界に誇る江戸浮世絵文化に川崎市民をはじめとする多くの来館者が触れることができた。  
また、展示図録としてカラー刷りの作品レポートも毎回無料で配布するなど、文化啓発を積極的に行ってきた。
- 豊富なコレクション  
所有作品 約3,000点 / 希少性の高い肉筆画約100点を含む
- 高い希少性  
「東海道五十三次」「富嶽三十六景」など、シリーズの全てが揃った高い希少性
- 川崎の郷土性を起点に収集  
川崎や神奈川県にゆかりのある作品を起点に収集された郷土性に満ちたコレクション
- 歴史体系に沿ったコレクション  
北斎・広重をはじめ、初期の菱川師宣～幕末・明治まで浮世絵の歴史を総合的に幅広く体感できるコレクション
- 国内外での高い集客性  
平成25(2013)年：@三菱一号館美術館 69日間で約66,000人を動員  
国内はもとより海外(アメリカ、フランス、イタリア等)への出張展示・貸し出しにおいても高い集客性を発揮

【所有作品の例】



葛飾北斎 「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」



初代歌川広重 「六郷の渡し」

## 1-5 浮世絵コレクションの特性をふまえた課題

- 浮世絵は、比較的手頃なサイズの版画でありながらその繊細な色使いも魅力である一方、保存環境によっては作品の劣化が早く、同じ作品でも異なる色彩になるという特徴がある。これらの特性から、浮世絵活用の際は、作品を近くでじっくりと見せることと、展示期間・環境に留意する必要がある。
- 浮世絵は、その作品の魅力も然ることながら、大衆芸術として、当時の生活文化・職人文化(産業文化)なども物語っている。その背景にある文化を、作品の鑑賞に加え、体験・体感を交えて多角的に伝えることが効果的である。
- 郷土性に満ちたコレクションは地域の歴史を後世に伝えるための川崎の貴重な文化資源であり、海外からの高い関心も寄せられていることから、これらは他に散逸させることなく川崎で活用していく価値がある。

## 1-6 浮世絵コレクションの特性をふまえた活用の方向性

### ① 良質な文化芸術作品の鑑賞機会の提供

浮世絵の特徴である繊細な彩色や保存環境に配慮した作品の見せ方や展示企画を検討し、美術品としての浮世絵の魅力をも最大限に活用した展示を行うことで、鑑賞者により質の高い文化芸術に触れる機会を提供する。

### ② 浮世絵の背景にある文化を体験などを通じて発信

作品の鑑賞だけでなく、その背景にある当時の生活文化・職人文化(産業文化)を、体験・体感を交えて多角的に伝えることで、親しみながら歴史文化に触れる機会を創出する。

### ③ 浮世絵の活用を通じたまちへの愛着と誇りの醸成

川崎の文化を物語る浮世絵作品等を多く所有する法人のコレクションは、地域の貴重な文化資源であり、それらを活用して、川崎の歴史文化を発信し、後世に伝えることで、市民のまちへの愛着と誇りを醸成する。

### ④ 浮世絵を活用した新たなにぎわいの創出

近年、アメリカ、フランス、イタリアなどの美術館での企画展で浮世絵が展示されるなど、海外からの関心も高い法人の浮世絵コレクションを活用し、今後増えることが予想される訪日外国人旅行者にも魅力を発信し、誘客していくことで新たなにぎわいを創出する。

# 浮世絵等の活用に向けた基本方針の概要

## 2-1 川崎駅周辺地区の動向

浮世絵コレクションの活用立地や事業展開等の検討にあたり、旧東海道や川崎大師といった浮世絵との親和性の高いエリアであり、かつ東京2020オリンピック・パラリンピックも踏まえ国内外からの誘客に最も効果的なエリアと考えられる「川崎駅周辺地区」の現状と課題から活用の方向性を抽出

### ●商業機能等の集積

J R川崎駅西側にラゾーナ川崎プラザ、東側にはアトレ川崎、川崎アゼリア、川崎ルフロン、DICE川崎、ラッタテラなど大規模施設や商店街の集積ほか、市内の宿泊施設も川崎駅周辺に集中している。

### ●既存の文化・交流機能

ミュージアム川崎シンフォニーホールをはじめ、ラゾーナ川崎プラザソル、川崎能楽堂では各ジャンルにおいて良質な文化芸術の鑑賞機会を提供している。またアートガーデンかわさきは、主に市民のアートの発表の場として、東海道かわさき宿交流館は、川崎宿に関する歴史・文化等の展示やまち歩きの拠点としても利用されている。

### ●川崎駅の立地優位性

川崎駅は、日本の玄関口である羽田空港から近く、鉄道・バスでアクセスしやすい立地であり、また東海道新幹線やリニア中央新幹線(平成39(2027)年開通予定)の起点となる品川駅からも1駅でアクセスできるなど、国内の交通の結節点に近く国内外からの来訪者が訪れやすい立地にある。

### ●川崎駅周辺の回遊性の向上

平成30(2018)年のJ R川崎駅「北口通路」の整備により、JR川崎駅東西の往来の利便性の向上と、羽田直結の京急川崎駅やバスターミナルといった駅周辺の回遊性が向上。

### ●観光情報サービスの国際化に向けた整備

J R川崎駅「北口通路」に「かわさき きたテラス」が整備され、観光案内・魅力の発信、訪日外国人旅行者にも対応可能なコンシェルジュサービスを実施。

### ●直近10年での大規模イベントの開催

ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックといった世界的イベントのほか、東海道川崎宿起立400年(平成35(2023)年)、市制100周年(平成36(2024)年)、川崎大師開創900年(平成39(2027)年)など、今後10年の間に川崎市の歴史に大きく関わるイベントが多く予定されている。

## 2-2 本市の政策の方向性

### 1) 川崎市総合計画

#### 【基本政策4】活力と魅力あふれる力強い都市づくり

それぞれの地域の歴史や文化に根ざした川崎らしさを大切にするとともに、スポーツや音楽などの地域資源を磨き上げ、それらが融合しながら変貌を遂げる国際都市川崎の多彩な魅力を発信します。こうしたことにより、都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、一層多くの人々が集い賑わう好循環のまちづくりを進めます。

#### スポーツ・文化芸術を振興する【政策4-8】

スポーツ・文化芸術活動を通じて市民が感動を分かち合うとともに、こうした活動をさらに促進することで、自ら暮らすまちに抱く愛着と誇りを次世代に継承していきます。

#### 戦略的なシテプロモーション【政策4-9】

新たな地域資源の発掘・創出に取り組むとともに、市民や企業などと効果的なコラボレーションを図り、川崎の魅力が広く伝わる戦略的なシテプロモーションを推進します。

### 2) 第2期文化芸術振興計画

#### ■文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり【基本目標1】

音楽や映像、歴史や伝統文化など、地域資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、これらの魅力を積極的に国内外に向けて発信し、市民の地域への愛着を増進するとともに都市イメージのさらなる向上を図ります。

#### ■「川崎の文化」の国内外への発信【基本目標1/施策3】

魅力的な川崎の文化芸術を育てるとともに、国内外に向けて発信することにより、都市イメージの向上や観光客の誘致を図り、個性と魅力が輝くまちづくりを進めていきます。

### 3) 新・かわさき観光振興プラン

#### ■世界に通用する観光づくり(戦略3.「川崎駅周辺エリア」の国際的な観光拠点化)

川崎駅周辺の商業集積力や交通利便性など恵まれた立地条件を活かし、広域エリアが一体となって買物、エンターテインメント、文化芸術、スポーツ、飲食、宿泊など総合的な機能を強化し、国際的な観光拠点性を高めます。

### 4) 川崎駅周辺総合整備計画

#### ■回遊性の強化【基本施策2】

東海道など地域の歴史・文化資源を活かした、新たなまちの魅力創造・発信するなど、地域への愛着を持てる魅力あるまちづくりを推進します。

#### ■グローバル化への対応【基本施策6】

羽田空港の国際化の進展や、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催等による新たなビジネスチャンスの活用、地域資源や立地特性を活かした観光・商業の振興を図るため、国際化を見据えたまちづくりを推進します。

### 5) 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針

#### ■まちづくり基本方針

羽田空港直結の立地特性を活かした国際性豊かにぎわいのあるまちづくり

## 2-3 川崎駅周辺地区の動向をふまえた課題

○川崎駅周辺地区は、羽田空港からのアクセスの良さ、大規模な商業施設や宿泊施設の集積、川崎駅北口行政サービス施設(かわさききたテラス)での訪日外国人へのコンシェルジュサービス等、国内外からの観光客の誘客に高いポテンシャルを持っている。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて世界中から日本への注目が高まっている中、川崎が国内外から多くの人が集まる国際的な文化都市として定着するためにも、立地優位性の高い川崎駅周辺地区において、川崎の文化を積極的に発信していく必要がある。

○川崎の文化を継続的かつ効果的に発信するうえで、いつ訪れても「川崎の文化」に触れられる常設的な機会の提供が最も望ましいが、現状、川崎駅周辺にはミュージアム川崎シンフォニーホールをはじめとした実演芸術の鑑賞機会の提供を目的とした文化施設が多く、絵画などの芸術作品を鑑賞できる常設の展示施設が少ない。

○地域の歴史・文化資源を活かした特徴ある新たな文化芸術施設を創出し、川崎駅周辺エリアとしてのまちの魅力の向上とにぎわいづくりに活用するとともに、市内にある既存の地域資源との連携により、川崎駅周辺エリアから市内全域へと回遊性を向上させる必要がある。

## 2-4 川崎駅周辺地区の動向をふまえた活用の方向性

### ①川崎駅周辺地区の立地優位性を活かした文化芸術の発信

商業・サービス業、文化・交流など様々な機能が集積したにぎわいの中心であり、国内外からの立地優位性も高い川崎駅周辺地区から、川崎の文化芸術を積極的に発信し、国際的な文化都市としての認知度の向上を図る。

### ②更なる回遊性を図るための戦略的な誘引

今後の増加が見込まれる来訪者に対し、何度も気軽に立ち寄ることができるよう、常に新たな文化・芸術体験・サービスを提供するなど、駅周辺へ戦略的に誘引することで、更なる回遊性の向上を図る。

### ③鑑賞及び文化芸術体験の提供による文化的魅力の向上

川崎駅周辺地区に、芸術作品の常設的な鑑賞機会を創出するとともに、体験などの新たなサービスを提供していくことで、市民の文化体験を通じた地域への愛着の醸成や文化・観光施設の充実による魅力向上につなげる。

### ④観光交流機能の国際化と広域的ににぎわいの創出

東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人に向けた地域の魅力や「和」の文化発信など、羽田からの玄関口である川崎駅周辺地区の国際的な観光拠点化を推進し、広域的ににぎわいを創出する。

# 浮世絵等の活用に向けた基本方針の概要

## 3-1 検証に基づく浮世絵コレクションの活用についての考え方

旧東海道、川崎大師などの歴史・文化資源をはじめとした市内にある様々な地域資源との回遊性を高め、新たな賑わいを創出し、本市の魅力国内外に広く発信するとともに、多くの観光客を誘客する取組を進めるために、公益社団法人川崎・砂子の里資料館が所有する浮世絵コレクションを川崎駅周辺で活用する必要があります。

### 3-2 活用の視点

① 展示規模	② 事業展開	③ 立地	④ ターゲット	⑤ 活用開始の時期
展示規模は色彩の特徴を作品の近くで見せること、高い頻度で展示を更新する必要性をふまえ、シリーズ作品が1回で展示可能なコンパクトな規模（55枚～60枚程度）で効果的・効率的に展示	浮世絵コレクションの展示だけでなく、「体験・体感」をはじめとした新たな交流を生む事業や、物販などといった多彩な事業を展開	羽田空港への玄関口のひとつである川崎駅周辺地区の中で、J R川崎駅・京急川崎駅・バスターミナルといった交通の要所に近接し、旧東海道からも近い立地	川崎市民とともに、J R川崎駅・京急川崎駅周辺を訪れる通勤・通学客、商業施設・宿泊施設等の利用者、新幹線や羽田空港を利用する国内外からの旅行者等をターゲットとして想定	観光交流の国際化による訪日外国人観光客数の増加という目標も踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピックを誘客・波及効果拡大の最大の機会と設定

### 3-3 活用コンセプト

“歴史×文化×芸術”による新しいエリアの創造  
 浮世絵という世界に誇る川崎ならではの  
 “歴史×文化×芸術”資源を活用し、  
 様々な地域・世代をつなぐ  
 新たなにぎわい創出プロジェクト

### 3-4 活用方針

- (1) 川崎の“歴史×文化×芸術”資源の活用
- (2) 浮世絵を通じた川崎の歴史・文化の継承
- (3) 他施設との連携による日本文化の魅力発信
- (4) 「川崎ならではの」の価値によるにぎわいの創出

- 「浮世絵コレクション」の有効活用を通じて、東海道や川崎大師地区などの周辺地域へと歴史文化の軸をつなげていきます。
- 浮世絵の活用を通じて、川崎の歴史・文化を後世に伝え、市民の地域への愛着と誇りを醸成します。
- 市民ミュージアム等他施設と連携し、川崎から日本文化の魅力国内外に発信し、文化都市としての魅力の向上を図ります。
- 立地優位性がある川崎駅周辺地区において、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、国内外の旅行者等を誘客し新たなにぎわいを創出します。

## 3-5 活用候補地に関する考察

○川崎駅周辺にある既存の市所有施設の改修を前提に、下記2施設を候補地として絞り検討  
 ○5つの「活用の視点」から各項目ごとの適否を考察

活用の視点	川崎駅前タワー・リパーク3階「アートガーデンかわさき」文化財団事務室跡跡スペース 普通財産	適否	東海道かわさき宿交流館 3階展示室 行政財産/公の施設(指定管理)	適否
① 展示規模	・150㎡のうち展示可能なスペースは100㎡程度 ・壁かけ55枚～60枚に加え、覗きケースやハイケースでの作品展示スペースを確保することができる。 ・3～4週間の頻度で展示替えを要する浮世絵作品の特性に合った規模であり、常設ギャラリーとして展開可能。	◎	・展示可能なスペースは50㎡程度 ・パネルで仕切れば壁かけで55枚の展示は不可能ではないものの、鑑賞者の十分な動線やケース展示のスペースは確保できず常設ギャラリーには適さない。	△
② 事業展開	・作品展示以外の「体験・体感」といった事業スペースが不足しているが、展示スペース内のレイアウト変更やアートガーデンの第1～3展示室を活用すれば、一時的な事業展開は可能。	○	・常設ギャラリー化した場合には従来行っている館の企画事業ができなくなるため、既存の指定管理業務を整理する必要がある。 ・3階展示室と併せて4階会議室を活用すれば、「体験・体感」などの一時的な事業展開は可能	△
③ 立地	・J R川崎駅北口直結による利便性 ・観光案内所(かわさききたテラス)との連携による誘客 ・旧東海道への新たなアプローチ確立 ・アートガーデンの利用団体・来場者との波及的誘客効果 ・東海道かわさき宿交流館との回遊性への期待	◎	・浮世絵と親和性の高い旧東海道沿いにて事業展開することができ一方で、駅周辺のにぎわいの中心からは離れた立地となる。	○
④ ターゲット	・交通の要所に至近であり、駅利用者、観光客、羽田空港を利用する訪日外国人をターゲットとすることができる。	◎	・駅からのアクセスを考慮すると、観光客や訪日外国人をターゲットにするためには工夫が必要	○
⑤ 活用開始の時期	・最短で平成31年中に活用開始	○	・有料での常設展示の実施には設置条例の改正や指定管理者との調整が必要となるため、現指定期間終了後の平成35年度が基本となる。	×
参考 (想定される初期投資経費等)	全体で150㎡あるアートガーデンに比べ、展示可能スペース50㎡のみの東海道かわさき宿交流館における設備改修、展示制作の整備については安価となることと想定される。			

【比較施設の位置図】



2つの施設を比較すると、常設展示スペースの確保や北口通路との直結、J R川崎駅及び京急川崎駅との至近性等から、誘客効果の高い川崎駅前タワー・リパーク3階の「文化財団事務室跡跡スペース」の方が、活用候補地として適していると考えられる。

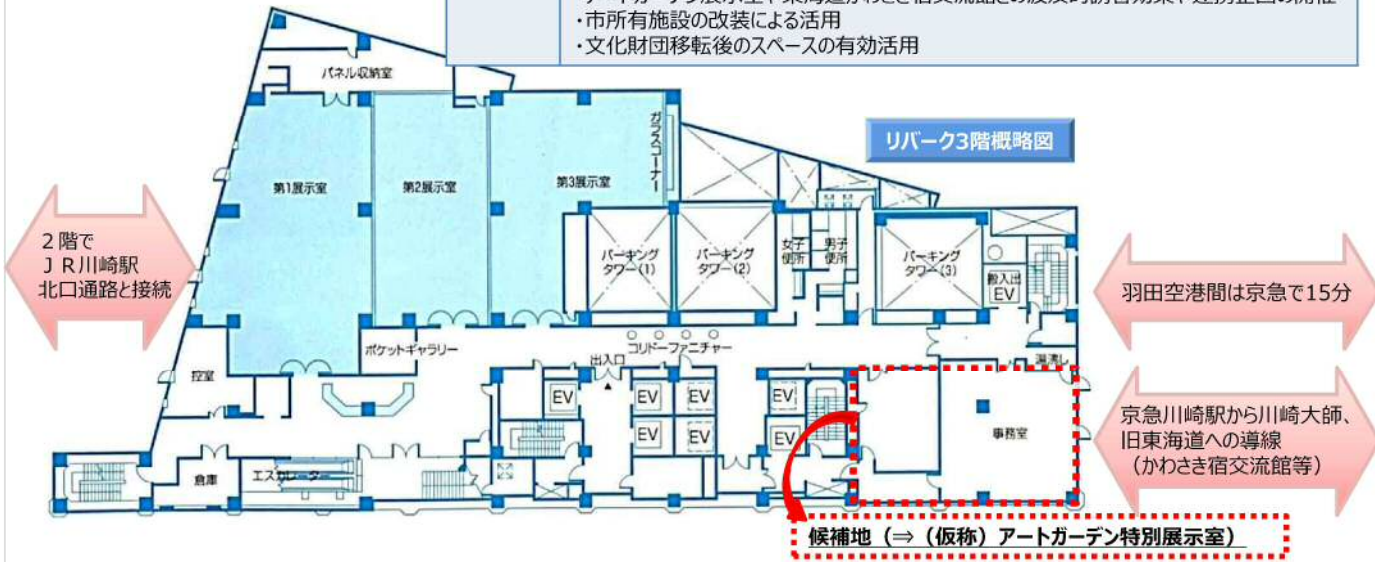
# 浮世絵等の活用に向けた基本方針の概要

## 3-6 活用候補地の比較・検討結果

### 「アートガーデンかわさき」内に所在する現「文化財団事務室」の検討

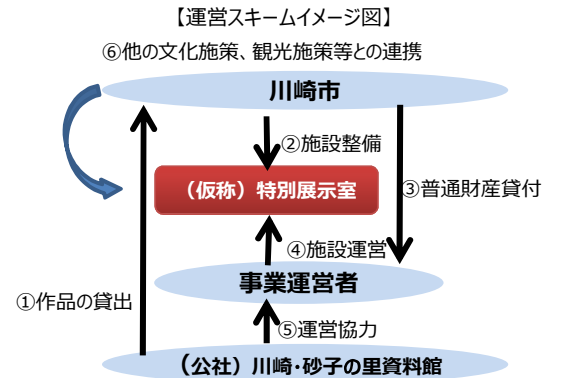
「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局機能を文化財団に集約することに伴い、文化財団事務室は移転（平成30年6月予定）

場所	川崎駅前タワー・リパーク3階（現状：普通財産） 文化財団事務室跡スペース100㎡ + 会議室跡50㎡ = 計150㎡
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J R川崎駅北口通路直結による利便性</li> <li>・ 観光案内所「かわさき きたテラス」との連携による誘客・回遊</li> <li>・ 京急川崎駅との近接性を活かしたインバウンド誘客（殿町地区や羽田空港連絡道路経由での来訪も視野）</li> <li>・ 旧東海道への新たなアプローチの確立</li> <li>・ アートガーデン展示室や東海道かわさき宿交流館との波及的誘客効果や連携企画の開催</li> <li>・ 市所有施設の改装による活用</li> <li>・ 文化財団移転後のスペースの有効活用</li> </ul>



## 3-7 施設運営形態等

- 「アートガーデンかわさき」は、市の普通財産として公益財団法人川崎市文化財団（以下「文化財団」という。）に貸付け、同財団では、第1～第3展示室の管理業務を行うとともに、事務室及び会議室として使用している。これは、文化財団が自主的に独自の企画展を開催したり、文化活動を支える市民の交流、創作活動の発表等の拠点としての有料貸出、即売ができるようにするためである。また、市の文化行政の一翼を担うことを目的に設立された文化財団に対し、その文化振興に資する環境づくりを行うことは財産活用の見地からも妥当であると判断したものである。
- 基本方針策定にあたり、川崎駅周辺の既存の文化施設の中で、「活用の視点」から検討した結果、アートガーデンかわさき事務室跡が候補地となり、当該候補地においてこれまでと同様に上記のような運用が適していると考えられることから、引き続き普通財産として貸付による運営について検討する。
- 市の文化行政の一翼を担うことを目的に設立された文化財団に対し、本件浮世絵等の活用を通じた更なる文化振興機能の強化を推進するため、事業運営者については、文化財団を視野に検討し、今後調整を図っていく。



## 3-8 想定される経費の項目

・下記の収支項目等を基に、今後、初期経費及び運営費の詳細について、精査・検討していきます。

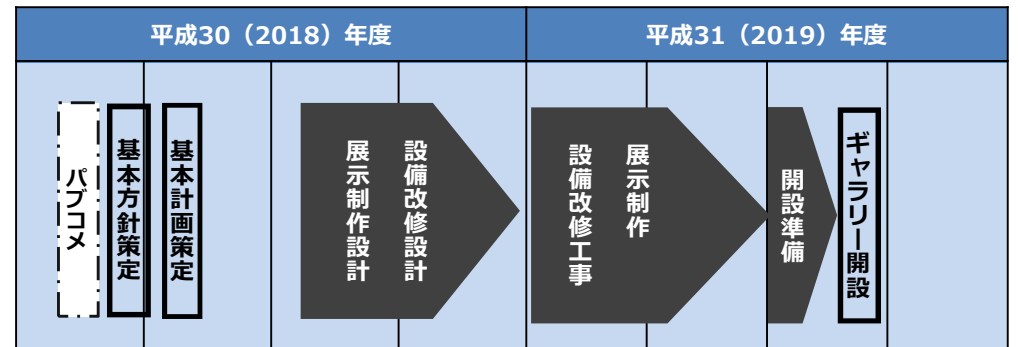
### ●初期経費項目

・開設準備 ・展示制作 ・内装、空調、照明、消火\*設備改修 ※消火方法は調整中

### ●事業運営費収支項目

収入項目	支出項目	項目内容
入館料	人件費	専門学芸員、受付、監視等
グッズ販売収益等	事業費	広報、図録作製、額装、作品運搬、保険等
協賛金等	施設費	施設賃借料、光熱水費等
市補助金		

## 3-9 今後の想定スケジュール



# 浮世絵等の活用に向けた基本方針の概要

## 資料編 1. 展示計画 (案)

参考資料

### ■ 展示ストーリー案

#### 誘引

浮世絵の世界へ

浮世絵展示施設への誘引として、展示施設の外側の壁面に宿場町であった川崎の歴史や、江戸の雰囲気を感じることでできる演出をあしらい、浮世絵の世界への期待感を醸成させます。

#### 浮世絵に触れる-1

川崎の歴史・文化と浮世絵展示

地元川崎に関する浮世絵作品なども展示します。また、作品に描かれた当時の川崎の背景や歴史文化も解説し、浮世絵から川崎の歴史を学びます。

#### 浮世絵に触れる-2 (企画展)

浮世絵コレクションの企画展

企画展形式でテーマを設定して実際の浮世絵作品を展示します。1回のテーマの展示企画は、浮世絵作品の資料保護に配慮し、4週間程度を想定します。

#### 浮世絵文化を深める

浮世絵の背景と浮世絵の工程

浮世絵の制作過程や技法、道具、日本文化とのつながりや世界に与えた影響などを、グラフィックや映像、実物資料の展示を通して紹介します。

#### 浮世絵の体験

浮世絵版画体験

浮世絵の技法や制作工程を体験できる場を提供します。体験はフレキシブルに設置できるようにし、制作した作品は持ち帰ってSNSなどの情報発信を通じて浮世絵の魅力を様々な人に発信できるようにします。

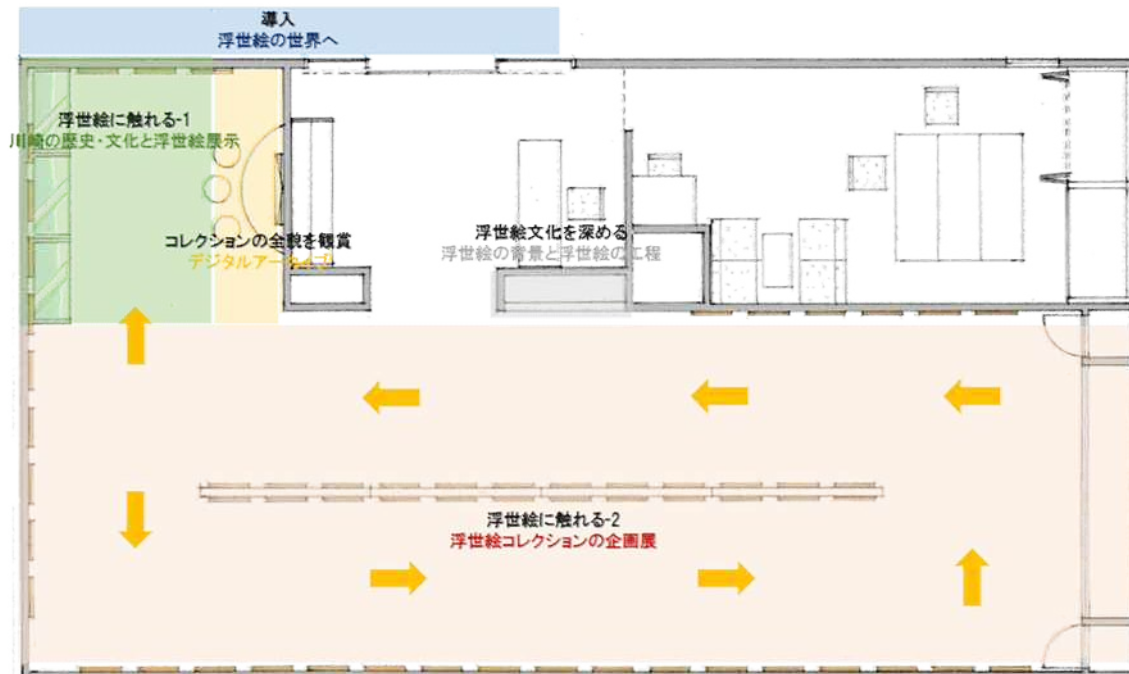
#### コレクションの全貌を鑑賞

デジタルアーカイブ

3,000点もの数が存在する浮世絵コレクションの全てをデジタルアーカイブにし、施設に訪れた際には、端末でいつでも浮世絵コレクションを見られるようにします。

### ■ ゾーニング及び動線イメージ

本平面計画では、計画にあたっての条件の中でも一番重要な条件である、額装された浮世絵作品を55枚以上展示できる計画としています。また動線は、一筆書きで周れるようなシンプルな動線を基本とする配置としました。中心の壁は可動壁となっており、今後の運営の中で、様々なテーマの浮世絵展示に対応出来るようにしています。浮世絵体験なども展示室内のレイアウトを変更することで、現在の施設規模の中で、様々な体験が出来るようにしています。



### ■ アイレバールイメージ

#### ① 壁掛け展示イメージ



#### ② ガラスケース展示イメージ

